



FCP活動 令和4年度実績及び令和5年度計画について

農林水産省
大臣官房 新事業・食品産業部
食品製造課 食品企業行動室
フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局



令和 4 年度 FCP 活動実績報告

令和4年度 FCP活動の主な取組内容

1. 若手フォーラム

- 1 – 1. 令和4年度若手フォーラム
- 1 – 2. 拡大若手フォーラム

2. 食の安全・信頼に関する新たな知見の蓄積勉強会

3. FCPの普及活動、交流・活動拡大

- 3 – 1. 地方・FCP会員への普及活動
- 3 – 2. 消費者への普及活動

4. FCP活動報告会

令和4年度FCP活動 スケジュール

FCP会員対象

FCP会員企業等の若手対象

地方に対する活動

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		蓄新第 積た1 勉な回 強知 会見 の 6/10			こども霞が関見学デー		蓄新第 積た2 勉な回 強知 会見 の 10/20			拡大若手フォーラム	
	若手1回 フォーラム 5/31		若手2回 フォーラム 7/29		若手3回 フォーラム 9/6		若手4回 フォーラム 11/29		若手5回 フォーラム 1/20	FCP活動報告会 1/25・26	
福井県立大学 4/27				7/1~8/31 ※オンラインイベント		三重県庁 10/12				2/15	



1. 若手フォーラム

趣旨・進め方

● 趣旨

食の安全・安心への取組は、フードチェーン全体の課題であり、また食品事業者にとっては終わりがなく、人材育成や事業者の相互関係づくりによる食品業界の体制の強化が重要

そのため、将来企業等の中心となる若手社員を対象に、リスクマネジメントの手法、規格や事業者の食の安全・信頼への取組事例を学び、食の安全・安心の観点から企業行動を考えることを目的として、FCP若手フォーラムを開催

● 進め方

- 全6回（若手フォーラム5回＋活動報告会）
- 原則対面・WEBのハイフレックス形式で開催
 - ※第3回は社会状況を鑑みWEB形式で開催
 - ※第5回は分散集合開催（2日程・チーム毎の分散集合）
- 参加者は食品関連企業の社員及び農水省職員、企業・部署混成で8～9名のチームで編成
- 各回、2名の講師の方から講義を受けた後、ワークショップを行う形で開催
 - 講義：社会環境や消費者意識の変化、企業の取組事例の変化を学ぶ
 - ワークショップ・進め方：講義を踏まえチーム内でディスカッション、意見を取りまとめ発表
 - まとめ：年間通しての成果物は第5回で作成、活動報告会にて発表
- 各回のワークショップはファシリテーターが主導し、サポートとして各チームにもチームファシリテーターを配置
 - ファシリテーター：山下 安信（やました やすのぶ）氏／株式会社フードサニテーション78
 - 各チームファシリテーター、アドバイザー（チーム順・企業名省略）：
 - 神井 弘之氏、大澤 幸弘氏、渡辺 敏雄氏、折井 真人氏、瀬川 恵寛氏、三森 伸二郎氏、
 - 堀 景太氏、丹野 美和氏、大西 由美氏、岩井 弘光氏、吉野 剛司氏

本年度 若手フォーラム講演内容

- 社会状況を踏まえつつ開催、ハイフレックス形式、WEB形式で開催
- 第5回は分散集合開催（2日程・チーム毎の分散集合）で開催
- チーム毎のWSでは、全体ファシリテーター主導の下、各チームのチームファシリテーターがサポート

回	講師/講演タイトル	
第1回 (5/31)	講演	株式会社BMLフード・サイエンス 大澤 幸弘氏、政策研究大学院大学 神井 弘之氏 / 「FCPと協働の着眼点、ベーシック16について」
		NPO法人食の安全と安心を科学する会 (SFSS) 山崎 賢氏 / 「食の安全・安心に係わるリスクコミュニケーション」
	WS	株式会社フードサニテーション78 山下 安信氏 / 「リスクコミュニケーションの実践」
第2回 (7/29)	講演	The Consumer Goods Forum, Japan 新藤 理子氏 / 「ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム (CGF) の活動とサステナビリティーの取組について」
		大阪大学人間科学研究科 講師 木村 友美氏 / 「食の選択とプラネタリーヘルス～多様性の観点から～」
	WS	株式会社フードサニテーション78 山下 安信氏 / 「食における課題と社会環境の変化」
第3回 (9/6)	講演	専修大学商学部 教授 渡辺 達朗氏 / 「フードシステムの循環経済化と食品のECのビジネスモデルについて」
		セブン&アイホールディングス株式会社 執行役員 釣流 まゆみ氏 / 「セブン&アイグループのESGの取り組み『GREEN CHALLENGE2050』達成にむけて」
	WS	株式会社フードサニテーション78 山下 安信氏 / 「食品産業におけるサーキュラーエコノミーの取組について」
第4回 (11/29)	講演	一橋大学大学院国際企業戦略研究科 教授 名和 高司氏 / 「食品企業が向き合うべきESG課題、CSV経営について（仮）」
		キリンホールディングス株式会社 CSV戦略部 大内 康臣氏 / 「キリングループのCSV経営とガバナンスについて」
	WS	株式会社フードサニテーション78 山下 安信氏 / 「食品産業におけるガバナンスとCSV経営（仮）」
第5回 (1/25,26)	WS	活動報告会における発表資料（最終成果物）の作成 「社会環境の変化に応じた食品事業者の対応（仮）」 ※第5回は講義はなし

各チームのプレゼンテーション

Aチーム

『フードロスから始まる地域食堂 in 雲仙市』



チームメンバー
有坂、岩永、江澤、香取、小池、竹下、廣本、毎田、森野

2023.2.15
FCP活動報告会

ミールキットで JAPAN POWER

地産地消で「おいしく」「楽しく」日本を元気に！

Dチーム

米澤 伸田 高崎 十文字
西岡 佐藤 山崎 中井

ファシリテーター
堀さん

廃棄食品を利用した環境に優しい ミールキットの開発



Gチーム
伊藤 管
木村 佐藤
杉山 山本
吉田 渡邊

バスエコプロジェクト ～人と地球を健康にしてバスろう！～

Bチーム



Everyone's Future with Rice

2023/02/15

2022年度FCP若手フォーラム
Eチーム

FCP活動報告 H班

～目指す未来：食へのアクセス2050～

株式会社タカキベーカリー 佐藤 勇介
有限会社和泉屋 太田 瑞穂
キューピー株式会社 平尾 隆介
テーブルマーク株式会社 宮崎 啓子
株式会社日清製粉ウェルナ 武井 友里恵
株式会社ベニレイ 加藤 裕朗
農林水産省 浅井 皓展

あの時こうしていればよかった 2030

消費者の食に関する当事者意識の醸成、社会環境の変化

令和4年度FCP若手フォーラム Cチーム

リーダー 江口祥吾
メンバー 大塚恵
和田高明
長谷川渉
高橋桃香
早田紗己
村松大吾

https://pixabay.com/ja/

2023/2/15

PROJECT FOR NET ZERO WASTE FOOD ～食品廃棄物実質ゼロの明るい未来へ～

Team Food (F)

株式会社生活品質科学研究所
双日株式会社
テーブルマーク株式会社
日清製粉株式会社
株式会社不二家
株式会社ベニレイ
株式会社ローソン
農林水産省

山下

篠田
針谷
佐藤
石原
澤野
磯崎

参加者の声（全回を通してのアンケート）

- ▶ 勉強会の内容やWEB形式でのコミュニケーション、フォーラムの運営に関する要望等についてアンケート調査を実施

調査対象	FCP若手フォーラム参加者
調査内容	<p>下記について、5段階評価、自由記入で調査（全11問）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 勉強会について（難易度や内容について） ◇ WEB形式におけるWSや参加者同士のコミュニケーションについて ◇ フォーラム全体の満足度について ◇ 事務局やファシリテーターへの要望、来期に向けた要望 等

◇ 参加者からのご意見（一部抜粋）

【勉強会内容】

- ・現在注目されているトレンドについて企業の取組や研究者の方の講演を聞くことができて非常に参考になった
- ・1回～5回のフォーラムがそれぞれつながっており、参加することで社会課題の解決の為に企業がどのような行動を行うべきか知見を高め、自分にない発想を持つことができた

【コミュニケーション・ワークショップについて】

- ・ハイフレックス形式は、対面とWEBのお互いの参加者のコミュニケーションが難しかった。工夫が必須である
- ・講義も興味深かったが、ワークの時間も多く取ってもらえるとより議論が深まる
- ・回数を重ねるごとに、スムーズに進行はできるようになった。作業ツールの活用等出来るともっとWSも深まるのでは
- ・チームファシリテーターがいることで、議論が詰まった時に助けてもらえた

【フォーラム全体について】

- ・日々の業務と直接的でない広い視野の話を聞く機会として面白い内容が多くあった
- ・様々な食品業界の参加者と関わることで考え方を吸収することができた

- ✓ フォーラム全体を通して、テーマや学びに関する満足度は高かったが、コミュニケーション面やフォーラム内の時間配分が課題として挙げられた
- ✓ 参加者が課題であったと感じた部分をしっかりと見直して次年度の活動に繋げていくことが大切

若手フォーラムの風景



↑若手フォーラム会場



↑↓若手フォーラムワークショップ
(チーム毎のディスカッションの様子)



1 – 2. 拡大若手フォーラム

● 趣旨・進め方

例年、歴代の若手フォーラムの参加者を対象にFCPネットワークの継続を図ることを目的として開催していたが、本年度は、社会状況によってすべての回がWEB開催となってしまった令和3年度の参加者を対象として、対面で交流できる機会を設け、参加者同士の継続的な関係づくりを目的として開催

趣旨に基づき、講演の時間は設けず、ワークショップと、自己紹介やフリータイム等の交流の時間を多くとる形で実施

● 当日プログラム

日時：1月20日（金）13時30分～17時00分

参加者：24社 34名（事務局・ファシリテーター含む）※参加者の中から事務局をサポートいただく幹事を選出

形式：集合形式

ワークショップ：FCPや食品業界のこれからを考える

※ 5つのチームそれぞれが、お題を基にテーマを決め、ワールドカフェ方式でディスカッションを実施

参加者が決めたテーマ：「FCPの未来」、「代替食品について」、「ゆるくつながるFCP」、
「FCPで作りたいフォーマット」、「食品業界のミライ」



↑拡大若手フォーラム開会あいさつ



↑WS風景
Copyright (C) 2023 MAFF All Rights Reserved.



↑ワークの内容を参加者全員で共有

参加者の声

- ▶ プログラムやコミュニケーション、フォーラムの運営に関する要望等についてアンケート調査を実施

調査対象	FCP拡大若手フォーラム参加者
調査内容	<p>下記について、5段階評価、自由記入で調査（全7問）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇フォーラムの満足度（形式・プログラムについて） ◇ワークショップのテーマ・形式について ◇今後の拡大若手やFCP活動への参加意向 ◇来期に向けた要望等

◇参加者からのご意見（一部抜粋）

- ・今回の開催方法は対面で多くの参加者と意見交換ができるよかったです。
- ・色々な方が感想で述べられていましたが、やはり対面での取り組みですと色々な点で得る物がとても多く参加してよかったですな、と強く感じました。
- ・人数が多くなかったので、ファシリテーターとも密にコミュニケーションを取れて（FCPの歴史や功績を聞けて）よかったです。
- ・若手フォーラム自体の活動とは異なり、交流がメインになるので、決められたテーマだけではなく、雑談から得られる共通の悩みや課題から相手を知り、自身、自社も振り返ることができる良い機会となった。
- ・勉強会や意見交換会等の機会を活用して今後も「ゆるく繋がる」ことを目標にしていきたい。
- ・今回令和3年度のメンバーに実際にお会いすることができました。また、活発に自由な発想で意見交換ができ、このような機会をくださりありがとうございました。

- ✓ 自己紹介やフリータイムの時間等交流を目的としたプログラム、集合形式での開催に対しての満足度が非常に高かった
- ✓ 今後も活動に参加したい（コミュニケーションを取りたい）との意見が多数あったので、歴代参加者と相談しつつ拡大若手の取組を継続していく



2. 食の安全・信頼に関する新たな知見の蓄積勉強会

趣旨・進め方

● 趣旨

食の安全を高め、消費者の信頼を得るために、食品事業者を取り巻く社会環境の変化や消費者意識の変化等を学び、社会環境の変化に応じた対応を実施していくことが重要

そのため、食の安全・信頼に関する新たな知見の蓄積勉強会では、社会の変化に対する企業活動の参考となり得る勉強会を実施

● 進め方

- WEB及び対面のハイフレックス形式で開催
※第1回は社会状況を踏まえWEB形式で開催
 - 2～3名の講師の方から講義を受けた後、参加者をグループに分け、ディスカッションを行う形で実施
 - 有識者の方の講演（全体）：食の安全・信頼の向上に関する最新情報
 - 事業者の方の取組事例（全体）：テーマに関する実際の取組事例について
 - ワークショップ（グループごと）：講義を踏まえチーム内で論点について議論していただき、自社及び業界の課題や取り組みを整理
- ※ワークショップを円滑に進行するため、事務局が事前にグループを設定

本年度 新たな知見の蓄積勉強会 講演内容

【第1回】

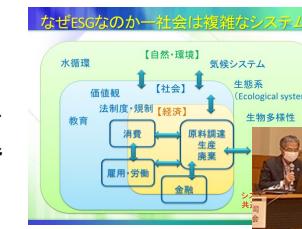
テーマ：ESGの観点から企業行動を考える ①ビジネスと人権の取組

参加者：56社 78名（傍聴参加含む）

【第2回】

テーマ：ESGの観点から企業行動を考える ②地球環境の課題

参加者：46社 71名（傍聴参加含む）



回	講師/講演タイトル	
第1回 (6/10)	講演	農林水産省大臣官房新事業・食品産業部 総括審議官 水野 政義 / 「食品企業によるESG対応（農水省の取組）」
		高崎経済大学 学長 水口 剛氏 / 「食品産業におけるESG課題」
		日本貿易振興機構アジア経済研究所 山田 美和氏 / 「ビジネスと人権に関して求められる企業行動」
		明治ホールディングス株式会社 サステナビリティ推進部長 松岡 伸次氏 / 「『明治グループのサステナビリティ活動』～持続可能な調達活動～」
	WS	議題：持続可能なビジネスに関する食品事業者としての対応
第2回 (10/20)	講演	農林水産省大臣官房新事業・食品産業部新事業・食品産業政策課 中世古 昌史 / 「食品産業におけるESG対応の推進」
		株式会社ニューラルCEO 兼 信州大学グリーン社会協創機構 特任教授 夫馬 賢治氏 / 「食品企業に求められるESGマネジメント」
		東京大学未来ビジョン研究センター 教授 高村 ゆかり氏 / 「持続可能な社会のためにできること」
		味の素株式会社 サステナビリティ推進部長 高取 幸子氏 / 「味の素グループにおけるサステナビリティの取組」
	WS	議題：地球環境の課題に対する食品事業者との対応

3-1. 地方・FCP会員への普及活動

◆地方におけるFCPに関する講演

- 地方公共団体等が、その地方の中小事業者、6次産業化に取り組む生産者等を対象に主催する商談会セミナー等において、主催者の協力要請に基づきFCP活動やFCPツール等の講演を実施
- FCP展示会・商談会シート等のFCPツールを依頼に応じて送付
 - ・4月27日 福井県立大学（生物資源学部創造農学科）講義【WEB】
「フード・コミュニケーション・プロジェクトについて」
 - ・10月12日 三重県コンプライアンス研修会【WEB】
「食品業界の信頼性向上について～5つの基本原則～」

◆情報発信・収集

- ホームページによる情報の提供
 - ・若手フォーラム・新たな知見の蓄積勉強会等の講演資料等を掲載
 - ・FCPこどもページコンテンツの拡充
- FCPメールマガジン等によるFCP会員に対する情報提供
 - ・FCP活動のご案内（勉強会の参加・傍聴案内など）
 - ・農林水産省の政策や事業等のご紹介

☆FCP通信で配信してほしいこと（要望等）があればお気軽にFCP事務局にご連絡ください！！